

首里城復元について

琉球大学名誉教授 高良倉吉

■主な重修の経過

- 1660 年 失火により首里城が全焼。1671 年に再建。
- 1709 年 失火により首里城が全焼。1715 年に再建。
- 1729 年 正殿の重修を行う。
- 1768 年 正殿の重修を行う。⇒「百浦添御殿普請付御絵図并御材木寸法記」
- 1811 年 正殿の重修を行う。
- 1846 年 正殿の重修を行う。⇒尚家文書 4 冊
「百浦添御殿御普請日記」1842 年、「百浦添御普請日記」1842～1846 年
「百浦添御普請日記・当方」1846 年、「百浦添御普請絵図帳」1846 年

■復元に向けたご提案

- 1) 前回復元は、現時点における首里城認識の到達水準
早期復元には、前回復元時の基本的な考え方を踏襲することが不可欠
- 2) 追加的な検討の視点
 - ・ 前回復元後に確認された資料の反映
 - ・ 木材調達等の市場変化
 - ・ 火災を踏まえた防火対策強化
 - ・ 褪色対策などの新たな知見の反映前回復元時と同様、技術的な検討の場を設ける必要

